

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

本牧原地域ケアプラザ

■ 事業報告

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

- (1) 28年度に策定された第3期地域福祉保健計画も2年過ぎ、中間期の振り返りをしつつ、地域の皆様と協働して少しでも目標と具体的な取組が達成できるよう推進しました。
- (2) 第4地区南部については、「本牧4南元気なまち運営委員会」の活動をベースに、【第4地区南部の“えん”結び】【第4地区南部の元気！】の取り組み、特に居場所、サロン作りを支援し、地域のネットワークづくりや地域の活性化を目指しました。
- (3) 新本牧地区についても同様に、自治会・町内会活動等に協力していく中で、「子どもを中心に、地域を盛り上げていきます！」の具体的な取組に協力し、課題について取り組みました。
- (4) 本牧根岸地区（本牧元町の一部、錦町を担当）についても、「元気な本牧根岸まちづくりの会」の活動などにおいて、本牧和田地域ケアプラザとも連携し、協力しました。
- (5) エリア内には高齢化率が30%を超える地域もあり、介護予防事業や認知症、権利擁護等に関する普及啓発に更に力を入れていきます。その為には、5職種（地域活動交流・地域包括支援センター・生活支援）で連携の推進、居宅介護支援、通所介護事業を含めた地域ケアプラザ全体での事業間協働の重要性を再認識し、地域ニーズの的確な把握とともに、課題解決に向けてのエリアマネジメント力の向上を図りました。
- (6) 担当エリアの分析をすすめ、地域の課題解決に向けて、行政・区社協をはじめとした関係機関との協力体制も推進しました。

(1) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

- (1) 地域の身近な相談窓口として、福祉保健にかかる高齢者、こども、障害者の個別相談に対応しました。各専門機関と協力、連携を図り情報共有と課題解決に努め適切なサービスが速やかに提供できるよう努めました。
- (2) 各地区で開催している民児協、元気なまち運営委員会・元気づくり推進協議会等に継続的に参加し地域の課題の情報共有と課題解決に努めました。また近隣の医療機関や介護保険サービス事業所その他さまざまな関連機関と日頃からの連携とネットワーク作りを行いました。
- (3) 第3期地域福祉保健計画の推進や、地域のイベント（ひとり暮らし食事会や連合町内会事業サロン等）へ参加し、地域ケアプラザの周知と新たな対象の把握を行いました。お楽しみ食事会・みどり会・元気なまち運営委員会・元気づくり推進協議会にはすべて職員が参加しました。
- (4) 担当エリアの地域の特性は勿論、新しく出来る施設や地域の変化、情報も常に収集して相談業務に役立てると共に、地域に発信していき地域の方々と今後の課題を見据えていくことに取り組みました。

(2) 各事業の連携

- (1) 地域包括支援センターの3職種の専門性を、コーディネーター（地域交流・生活支援）と日常的・定期的に情報、意見交換を行い、地域の情報交換と情報共有を行い、地域のネットワーク強化に努めました。
第3期地域福祉保健計画の推進には所長と5職種全てが関わりました。
- (2) 地域ニーズを把握し、課題解決へ向けた事業の共催、協働に努めました。また、地域の個別課題は、生活支援コーディネーターを加えた5職種が共通認識を持って取り組みました。6職種会議（所長・包括・地域活動交流・生活支援）を月1回開催し、情報共有・目的の明確化を図りました。また担当エリア内の地域の行事にも、地域交流・生活支援・地域包括の職員で分担して参加しました。地域住民を対象とした「地域ケアプラザを知ろう」啓発講座を開催しました。業務内容を改めて伝えてケアプラザの利用促進に繋げました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- (1) 地域ケアプラザで実施する事業に必要な専門性を持った職員を適切に配置し、それぞれが連携を密にして、地域ケアプラザを利用される方の相談に応じました。
- (1) 多様な課題を抱える相談にも応じることができるよう、専門分野に関する知識だけでなく、担当エリアの地域情報収集に努めました。
- (2) 職員各人の担当業務や経験年数に応じで業務に支障のない限り、必要な研修等を受講させました。
- (3) 法人本部において職種毎（看護師・主任介護支援専門員・社会福祉士・地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーター）の担当者会議や研修も行っており情報収集や情報交換を行い、機能強化を図りました。
- (4) 組織内外で実施される研修に参加する機会を多く確保し、知識や技術の向上を図るとともに、研修参加者より伝達研修を行い、職場内で研修内容を共有化しました。
- (5) 利用者・事業者を問わず、公正・中立性を確保しました。包括支援センターからケアマネジャーへの新規ケースの依頼は「居宅介護支援事業所 新規依頼

表」を作成し、選定ツール・選定理由等を記入し公正・中立を図りました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- (1) 民生委員とケアマネジャーとの交流会から地域に傾聴ボランティアの必要性を知り生活支援 CO に傾聴ボランティアを育成してもらい、現場で活動してもらっています。協力医とケアマネジャーと協力し在宅医療につながるよう連携を取りました。連合町内会、地区社会福祉協議会との懇談会などに参加しネットワークの構築を図りました。
- (2) 子育て支援事業では参加者に傾聴することができました。県外から越してきた方が多く孤独に子育てをしているお母さんがサロンを利用することで母親同士での関係性ができました。親子ヨガなどを取り入れることで、お母さんのリフレッシュにも繋がりました。
- (3) 夏の余暇支援事業は参加者が集まらず、今後の課題になりました。文化祭期間には地域の方に中途障がい者施設の方と一緒にポレポレグッズ作りを体験していただきました。
- (4) 共催事業で親子キッズプログラミングを開催、本牧ライトアッププロジェクトへの参加、コミハ主催のお祭りに参加するなど連携することができました。
- (5) 地域の防災訓練をはじめ、ポレポレ祭り、ハロウィンなど地域のイベントやボランティア団体の活動に積極的に参加しました。
- (6) 第3期地域福祉保健計画地区別計画に基づいて、5職種が各関係機関と連携し情報共有しながら課題解決に努めました。
- (7) 第4地区南部の「本牧4南元気なまち運営委員会」、新本牧地区の「元気づくり推進協議会」の会議に出席し、各関係機関と意見交換をしました。

(5) 区行政との協働

- (1) 第3期地域福祉保健計画について、できる限り区・区社協と協働して推進しました。特に10月にオープンした第4地区南部の本牧満坂にある「HOMMOKU もくり」については、生活支援コーディネーターが毎月の定例会に参加し地域支援チーム会議を始め、事業所内で情報提供を行なっています。またH30年度「中なかいいネ！」の発表会に向け、区事業企画の職員とともに情報共有し、資料作りをはじめとした支援を行ないました。
- (2) 区内全域を対象とした区事業等にも積極的に参加しました。10月には6地域ケアプラザと協働で「ハロー横浜」に包括社福士と生活支援コーディネーターが参加し、市内外の住民に向けて、地域ケアプラザの周知に努めました。
- (3) 区や他の包括支援センターと協議し、包括的・継続的なケアマネジメント支援計画を策定し、実施しました。
- (4) 毎月地域包括支援センターカンファレンス・地域支援チーム会議に出席し課題解決に取り組みました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- (1) 新たな地域住民同士の交流、仲間作りの場として、レコードカフェの一環で老若男女問わず誰でも参加できるオープンカフェを開催しました。新規の参加者が増え、特に男性同士の集いの場として定着しました。
1/20開催の「New Year Concert」は子どもから大人までの登録団体、ボランティア団体5つの団体が参加しました。
- (2) それぞれの事業計画において、前年度を踏まえて設定しました。単発事業は次回開催時への参考になるよう、終了後にアンケートを実施しました。
- (3) 講師、参加者の協力により「太極拳」「ハッピータイム」「折り紙教室」は来年度は自主化することになりました。引き続き、「シルバー体操」「もう一度 English」は後方支援をしました。
- (4) 5職種で協力し、地域住民の居場所「HOMMOKU もくり」を支援しました。ケアプラザの文化祭では「HOMMOKU もくり」で自家栽培している野菜の販売を行うなど地域住民と交流をはかりました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- (1) 年度初めに貸館説明会を2日間にわたって開催、35団体40人が出席しました。施設利用の再確認、福祉保健活動について具体的な説明をしたうえで活動例を示したアンケートを配布しました。また包括と共催して、作業療法士による講座を開催しました。自分たちの活動が住民同士の繋がりをつくっていることを再認識してもらうことができました。
- (2) 広報誌やホームページを通じて貸室利用の周知を行いました。今年度は新たに17団体が登録をしました。
- (3) 夏の本牧ライトアッププロジェクトでは福祉保健活動団体にも協力していただきペットボトル作りに参加してもらいました。地域イベントを知っていただくきっかけになりました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- (1) 3月にボランティア交流会を開催し、38名のボランティアが出席しました。席をシャッフルして個々に席次表を配布したことで普段顔を合わせないボランティア同士が情報交換を行うことができました。
- (2) Let'sボラは多目的ホールに掲示、ケアプラザの広報誌では毎回ボランティアの活動紹介を掲載しました。また、貸館説明会ではボランティア活動一覧表を配布して参加しやすいように具体的な説明をしました。
- (3) ヨコハマいきいきポイント対象施設として地域活動交流コーディネーターが講習を受けて、ボランティア活動の支援に努めました。
- (4) 「太極拳」「ハッピータイム」「折り紙教室」は自立を促したうえでボランティアを中心に運営することができました。来年度からは自主化します
引き続き、「シルバー体操」「もう一度 English」は後方支援をしました。
- (5) 本牧中1年生を対象に防災学習を行いました。災害時におけるケアプラザの役割、日頃行っている訓練、応急備蓄について説明しました。
また、ケアプラザ祭りでは本牧小から19人がボランティアに参加してくれました。

- (6) 大鳥中コーディネーターと密に連絡をとり情報交換を行いました。またデイサービスの敬老週間とクリスマス週間では吹奏楽部に演奏を依頼しました。
- (7) 包括から紹介を受けたお客様にはデイサービスのボランティアや事業への参加を促し、家にこもりがちだった方の外出のきっかけになりました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- (1) 5職種で地域の昼食会やバス旅行に参加し情報収集に努めました。そこから地域住民の声を聞くことができました。
- (2) 広報誌はそれぞれ5職種の特性を生かし、さらに内容の充実を図りました。結果、事業の参加や相談業務の増加に繋がりました。
- (3) 各事業のチラシを作成し、受付カウンターや掲示板にて広報しました。また、2ヶ月に1回の広報誌の発行や随時ホームページを更新し、また区イベントカレンダーなども利用して地域への情報提供に努めました。
- (4) 単発の事業や新事業については来館者に積極的に声をかけ、また近隣の施設にもチラシを配布するなど周知に努めました。
- (5) 地域支援チーム会議であがった課題をもとに5職種で連携し、解決に向けて取り組みました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- (1) 定期的で開催される5職種会議での情報をもとにニーズにあった支援を心掛けました。本牧根岸地区にあるマリンハイツでは住民主体のアンケート実施に包括とともに関わり、住民相互の見守り体制構築に向けて、住民と協働し取り組みました。
- (1) 地域支援チーム会議では、区役所・区社協・地域ケアプラザそれぞれの専門職が把握している地域情報や課題について、定期的な会議を開催、それぞれの視点で意見交換を行いました。新本牧地区の隣接するパークシティ本牧については、シニアクラブの活動に積極的に参加し、チーム会議内での情報共有に努めました。特に6月にシニアクラブ主体で始まった「パーク歴史カフェ」の企画に協力、今後も連携し支援していくとともに、住民が抱える課題についてヒアリングを実施、区役所・区社協とともに情報共有し解決に向け働きかけました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- (1) 昨年度整備された本牧エリアの地域活動・サービスリストをもとに地域活動に向き、情報の活用促進や更新を行ってきました。またケアマネの協力のもと利用者向けに「生活支援ニーズに関わるアンケート」を実施。新たな地域資源創出に向け情報収集に取り組みました。今後は包括が把握している個別ニーズも含め、地域住民とともに解決に繋がるよう取り組みました。
- (2) 「民生委員・ケアマネ交流会」で把握したニーズから「傾聴ボランティア講座」を開催し、ボランティアグループを立ち上げました。今後は新たなインフォーマルサービスとして機能するよう引き続き支援しました。

(3) 連携・協議の場

- (1) 本牧根岸地区マリンハイツでの住民相互の見守りについて話し合いの場に参加し、2月には協議体を開催し、具体的な取り組みに繋げていきます。また他地区については、地域活動に参加しヒアリングを進めてきました。今後課題について共有し協議する場を設けます。
- (2) 単位自治会・町内会、老人クラブ等の活動に参加し、活動状況を把握、ヒアリングを行ないました。そこで地域の食事会に参加できない日中独居高齢者がいる実態について把握、今後地域住民とともに取り組みを進めていきます。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- (1) 新本牧地区の「顔が見える関係づくりの構築」を進めるため、パークシティ本牧のシニアクラブ「けやき会」の活動に参加し、住民からヒアリングする機会を持ちました。今後は把握している地域課題について意見交換等おこないました。
- (2) 第4地区南部にある「HOMMOKU もくり」のオープンに向けて区役所、区社協等関係機関とともに「地域の居場所」について取り組んできました。今後も地域の中で「居場所」が機能するよう働きかけを行いました。
2月には民生委員と介護支援専門員等との交流勉強会を包括と共催で開催し「支えあいマップ作り」を実施しました。今後エリア内の小単位で実施、住民と共に地域課題について協議する場を設定しました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

- (1) 町内会、自治会、町内会役員、民児協、各種ボランティアグループ等と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせるネットワーク作り形成に努めました。ネットワーク構築により多方面からの情報収集を行い、今まで把握しきれなかった個別ケースの相談援助を行いました。特に民生委員からの情報提供が多くケースの把握に繋がりました。
- (2) 地域ケア会議を開催しました。(個別レベル2回、包括レベル2回) 元気なまち運営委員会・元気づくり推進協議会に参加し、多方面からの情報収集と連携を図り課題解決に取り組みました。
マリンハイツで開催した地域ケア会議では自治会役員と協力して、マリンハイツ住人を対象としたニーズ調査を目的としたアンケート調査を行いました。

② 実態把握

- (1) 地域の特徴を知るために、町ごとの相談・訪問件数の分析を行い、地域特性を探りました。
- (2) 第4南部の「元気なまち運営委員会」・新本牧の「元気づくり推進協議会」・民児協・連合町内会・大規模店舗(イオン)などとの連携を強めて、地域としての課題の把握と共有に努めました。

「HOMMOKU BASE」で認知症サポーター養成講座の開催、イオンクリスマス会（黄色いレシート補助金交付式）でのCPの事業啓発を行いました。

- (1) 地域支援チーム会議や地域包括支援センターカンファレンスで、関係機関と情報共有を図り、担当エリアの地域分析に努めました。

③総合相談支援

- (1) 地域の身近な相談窓口として、福祉保健にかかる個別相談を受けるとともに、各種関係機関と連携して、常に適切な、速やかなサービスが提供できる体制を維持しました。
- (2) 地域包括支援センターの3職種が、それぞれの専門性を活かしながら連携し、障害・医療・金銭問題等の多様化している相談に対しても、チームアプローチを心がけ、迅速に、適切に対応しました。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- (1) 「成年後見サポートネットワーク」の全体会・分科会に積極的に参加し、市民後見や専門職、支援者との連携に努めました。
- (2) 個別的相談でも、多様な専門職者と連携し、課題の速やかな解決に取り組みました。(法テラス、弁護士・司法書士等)
- (3) 司法書士による「相続遺言講座」「民間運営の身元保証」講座を地域に向けて開催し、終活に関する啓発活動を行いました。
ポートハイツ住人に向けて、詐欺被害についての周知啓発講座を行いました。
- (5) 介護保険事業所や地域関係者と密に連絡を取り、日頃から高齢者に働きかけ、消費者被害を未然に防ぐよう努めました。

②高齢者虐待への対応

- (1) 高齢者虐待防止事業指針に基づき、民生委員、町内会、介護保険サービス事業者、医療機関、行政機関と連携し、虐待の早期発見、防止に努めました。
- (2) 区役所で開催されたネットワークミーティングに参加し、関係者間での情報共有を行いました。関係者への支援を通じて、家族支援を行いました。
- (3) ケアマネジャーと常に連携し、虐待になる前の段階で気づき、その段階で関わるよう努めました。

③認知症

- (1) 企業向けに認知症サポーター養成講座を、開催したことで、地域貢献したいという思いの人が多く、キャラバンメイトを増やすことができました。地域のお店を借り、サポーター養成講座を開催でき、地域への認知症予防の啓発活動もできました。
- (2) グリーンリーフ地域勉強会の認知症サロンが、毎月開催されていることが周知され、エリア外の参加者も増えました。サロンの際には地域情報、区役所での取り組み情報を伝え、認知症の介護で悩んでいる人がいつでも参加できるよう取り組みました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- (1) 包括エリアの民生委員との顔の見える関係づくりを行う為、日常的に介護支援専門員やサービス提供事業者との橋渡しを行いました。
- (2) 民生委員と介護支援専門員等との交流勉強会を開催し「支えあいマップ作り」勉強会をしました。民生委員さんからは、この地図をもっと学び地域に活かしたいと言われ更なる地域別での勉強会を開催します。
- (3) 地域住民と地域の諸団体（連合町内会、民生委員、地区社協等）、関係機関（区・区社協等）の連携が推進されるよう提案を行い、実施しました。

②医療・介護の連携推進支援

- (1) グリーンリーフ地域勉強会を開催し、地域の介護支援専門員や介護保険サービス事業所従事者等と医療機関との連携を支援しました。ケアマネジャーにとって必要な社会資源の情報提供をしました。
- (2) 所内においても、「事例検討会の持ち方」勉強会を開催し、ケアマネジャーのスキルアップ、意識改革をしました。
- (3) 個別ケースの相談を通して、総合病院の医療相談室や地域の開業医等との関係を構築できました。

③ケアマネジャー支援

- (1) 包括エリアで活動する介護支援専門員のスキルアップや地域ネットワーク構築支援の為、グリーンリーフ地域勉強会で、臨床心理士による勉強会や認知症サポーター養成研修・認知症サロンの開催、地域のフォーマル・インフォーマルサービスについての勉強会を開催しました。
- (2) 「かいごのWa！なか」ケアマネ部会に対しては、区内で活動している介護支援専門員全体のスキルをあげる研修等を行い、介護支援専門員の自主的な活動の相談支援を行いました。
- (3) 中区内包括支援センター主任ケアマネジャーと共催し、月1回ケアマネサロンを開催しました。気軽に相談できる居場所・介護支援専門員の現状把握、地域の資源づくり・事例検討会を行い、介護支援専門員を支えました。
- (4) 地域ケア会議を開催し、関係機関との調整や助言を行いました。
- (5) 支援困難事例の相談に対応し、各専門機関や地域の関係者の連携の下で具体的な支援内容を検討できる地域ケア会議を開催しました。

(6) 中区内地域包括主任ケアマネジャーが主催して、中区内の新任介護支援専門員に対する研修・実習を行いました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

(1) 地域の高齢者の方が抱えている問題や実態の把握を行い、地域の介護支援専門員が高齢者の自立に資するケアマネジメントの助言、支援を行う為、行政職員、民生委員、町内会役員、その他地域の構成員、介護サービス事業所、在宅医療の関係者と連携を図り、強化しながら地域の課題に取り組みました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- (1) 要支援者・介護予防ケアマネジメントどちらの対象者も日常生活の中で出来ることを実感するような具体的な目標プランを対象者と一緒に考え設定し、本人がその先どのような自分でありたいかをイメージできるような自立支援を軸にしたケアプランの作成をしました。
- (2) 予防プランを外部に委託する場合は、担当者会議に参加し、担当ケアマネジャーと連携しながら適切なケアプラン作成を支援し、利用者本人や家族にもサービスが適正に利用できるようにしました。インフォーマルなサービスも積極的に取り入れられるよう情報提供すると共にまた利用者本人の状況をふまえ事業対象者になれる方には直営、委託も含め積極的に促し移行し、逆に介護認定が必要な方には早めに申請を促して必要なサービスが受けられるようにしていきました。
- (3) 介護予防・日常生活総合事業をふまえ予防プランを委託している事業者に対してインフォーマルサービス等をケアプランに活用できるよう紹介、プランの充実と介護保険サービス外の社会資源の活用を促していきました。区内の包括保健師職、区の高齢支援課保健師と協働して新人介護支援専門員研修では総合事業の説明をし、また介護予防従事者研修を区内要支援委託事業所介護支援専門員向けに開催いたしました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- (1) 介護予防教室にて高齢者が一人ででも自宅で取り組めるよう運動、筋トレ、ストレッチなどロコモ予防と認知症予防レクリエーションを毎回、口腔機能向上、栄養講座も期間をあけて複数回実施しました。【ケアプラザ、地域の高齢者集合住宅相談室共に1回/月12回コース】本牧原での開催では介護予防の必要性については十分に理解され、参加者が新しく参加を誘うことができました。地域の高齢者住宅では参加者は固定されたが自主化は難しく引き続き支援していきます。
- (2) 6か所の元気づくりステーションの担い手の方と相談をしながら引き続き地域の方が継続していかれるよう内容の充実の為の支援を続けていきました。6か所それぞれ回数も内容も違うので区保健師と連携しながら出来る限り参加をし

て担い手の方が負担にならないよう楽しみながら続けていかれるよう支援して
いきました。参加者も飽きずに続けられるよう内容を一緒に検討し次年度に出
来るようにしていきました。

- (3) 本郷町見守り隊定例会、民生児童委員定例会にて時間をもらい高齢者に必要な
栄養や口腔機能、認知症予防等の知識、季節ごとの生活の注意や見守りのポイ
ント等を伝え活動に生かせるようにしました。
- (4) ケアプラザの貸し館説明会時に作業療法士による講座を開催し、地域で役割を
持ち楽しく活躍していくことの意義や仲間を誘うことや、認知症になっても続
けられる居場所になれることの気づきになりました。また各団体の交流のきっ
かけにもなりました。【5月に2回分けて開催】

5 その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

- (1) 地域ケアプラザは地域の様々な方が利用される施設ですが開所後19年目とな
り、施設の維持管理にかかる費用も増加してきています。事故防止や設備の不
具合等がないように、空調設備、消防設備、エレベーター、自動ドア、機械整
備、冷暖房機器等の保守、点検を定期的に行うとともに、中長期的な修繕計画
の策定を検討しました。
- (2) 管理、保守を委託している業者との契約については、毎年更新時に内容を検討
し、日々の連絡も密に行いましたが、清掃業者の人員不足により、来年度どう
するか見当が必要である。
- (3) 日常清掃や消耗品の補充などといった各箇所の日々の管理を通して、利用され
る皆様が安全に、気持ちよくご利用いただけるように努めました。

(2) 効率的な運営への取組について

- (1) 地域ケアプラザの業務は多岐にわたっていますが、それぞれの業務について全職員が常に優先順位を意識し、時間外勤務においても適正な執行に努めました。
- (2) 労務、経理等の事務処理に関しては、法人本部による一括処理など、業務や役割を分担しながら事務の効率化に努めました。
- (3) 建物管理、保守、送迎車両のリース等委託業者の選定にあたっては電子入札を実施するなどして経費節減に努め、節電、省エネにも積極的に取り組みました。

(3) 苦情受付体制について

- (1) 法人で定められている「苦情解決規則」に基づいて、地域ケアプラザにおいても苦情受付担当者、苦情解決責任者を設置して、利用される方からのご意見及びご要望、苦情などに対応するとともに再発防止に努めました。
- (2) 法人では公正・中立の立場を重んじた、斡旋、調整を行う第三者委員を設置し、適切な苦情解決に向けての体制を整備し、取り組みました。
- (3) 館内に「ご意見箱」を設置し、いつでもどなたからでも何かあればご意見等を受け付けるようにしました。
- (4) 事業ごとにお客様アンケートをいただき、改善、発展につなげます。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- (1) 法人では、東日本大震災を踏まえ防災マニュアルの見直しをはじめとしたプロジェクトを発足させ、地域ケアプラザ毎のサービス提供継続計画（BCP）を策定しています。当地域ケアプラザにおいても、地震、火災等の災害時の備えとして、防災対応マニュアル、消防計画等を策定しており、中消防署を講師に迎えた年2回の防災訓練では、通常の避難訓練に加えた心肺蘇生・AED訓練などを実施し、緊急時に職員が適切な対応が取れるよう災害時に備えています。今年度も2回行いました。
- (2) デイルームが2階の為、現在使われていない避難用スロープを利用できるようにするとともに、従来のやり方と変更し、歩ける方は1階に下りてきてもらう防災訓練にしていきます。
- (3) 横浜市から福祉避難所としての指定を受けており、災害時に地域防災拠点では避難生活を送ることが困難な高齢者などの避難場所として受け入れます。また、備蓄物資を管理するとともに、行政との連携を図ります。
- (4) 中区で行っている「特別避難場所会議」に出席し、情報伝達訓練を行いました。その訓練もどの職員もできるようにし、いざという時に備えます。
- (5) 防犯については、夜間機械警備等を行い、安全に努めました。

(5) 事故防止への取組について

- (1) 介護サービス提供中などに事故に至らなくても気が付いた点について「ヒヤリハット報告書」に記録してミーティングや会議の場で報告し、原因の究明と対応を検討し職場内で注意喚起や徹底をするとともに介護技術向上の研修を通して、事故の未然防止に努めました。
- (2) 所内会議等において、他の事業所などでの事故の事例や緊急対応マニュアルを確認するなど、事故防止に関する研修を組み入れ、職場における危機管理意識の向上に努めました。
- (3) 毎月、衛生委員会を開催し、リスクマネジメントについての報告、検討をし、産業医からのアドバイスを受けました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- (1) 地域ケアプラザ内全職員に対し、年1回の「個人情報保護研修」と共に、法人で作成した「プライバシーの尊厳と保護に関するマニュアル」による人権研修を実施し職員の意識を高めました。
- (2) 法人のサービス向上課がまとめている法人全体の中の情報漏えいの事故があった際には職員会議、デスタッフ会議等で共有しました。

(7) 情報公開への取組について

- (1) 横浜市が制定する「情報公開条例」の趣旨に則り、法人で「情報公開規程」を定めています。情報開示の請求があった場合には、個人情報保護に最大限配慮しつつ、積極的に情報開示に努めます。
- (2) 広報誌（はらっぱ通信・デイ便り）やホームページ等を活用して、各種事業に関する情報を幅広く市民の方へ提供できるようにしました。

(8) 人権啓発への取組について

- (1) 法人で、年1回全職員向けに「人権研修」を行い、受講できなかった職員には地域ケアプラザ内で伝達研修を行います。
- (2) 全職員に対し、年1回の個人情報保護研修と共に、法人で作成した「プライバシーの尊厳と保護に関するマニュアル」による人権研修を実施しました。研修により、職員の意識を高めました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- (1) 良好な環境維持のために省エネルギー対策、ごみの減量化に努めます。節電、節水をこまめに行い（雨水タンクの活用）、コピー用紙の裏面使用や封筒の再利用を行うとともに、資源ごみの分別収集を徹底しました。
- (2) 地域ケアプラザの樹木の管理については、専門業者に委託しています。また、「花やぐまち事業」などによる植栽で、環境保全や環境美化にも配慮しました。
- (3) 地域ケアプラザの樹木以外の季節の花々の手入れを地域のボランティアが行うことにより、季節感を感じることができるようになりました。
- (4) 夏場に予測される電力事情の課題にも、行政機関等と連携を密にして情報の収集を図り、節電等に取り組みました。
- (5) 建築物環境衛生管理、空気環境測定、簡易水質検査、害虫駆除等を定期的に行いました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

《職員体制》

地域包括支援センター職員・・・保健師担当看護師
主任介護支援専門員
社会福祉士 各1名
非常勤従事者・・・予防プランナー 1名

《目標》

- (1) 介護予防プランが滞ることのない体制を維持します。また、ご本人が、自ら主体的に介護予防、健康維持に取り組めるよう、個別性のあるプランを作成し、要介護状態とならないように努めました。
- (2) 地域ケアプラザ自主事業や、地域でのサロン、社会資源（インフォーマルなサービスも含む）も取り入れた計画を作成しました。
- (3) 介護予防プラン、介護予防ケアマネジメント委託先の居宅介護支援事業所をはじめ、関係事業所、地域との連携を密にしていき、包括ケアシステムの構築を念頭におきながら住み慣れた地域に生活し続けられるよう働きかけていきました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

介護予防事業を一般高齢者とともに要支援高齢者、事業対象者も一緒に参加できる内容で企画、運営します。また、通年を通して開催することで生活機能改善や行動変容を促す目的の講座（ロコモ予防、栄養改善、口腔機能向上、認知症予防）を適宜受けられるようにします。委託先の居宅介護支援員にもインフォーマルサービスとして活用できるように積極的に働きかけ、高齢者の方の外出や運動、生活習慣を見直すきっかけとして活用してもらいました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
130	131	133	134	133	134
10月	11月	12月	1月	2月	3月
133	132	130	136	135	137

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

常勤専従 3名
 常勤兼務 2名
 非常勤専従 1名

《目標》

○自立支援、認知症支援、医療連携○

- (1) 在宅生活されているご本人とご家族の意向を尊重して、ケアプランを作成しました。
- (2) ご本人の生活歴を踏まえ、住み慣れた地域でその人らしい生活ができるように介護保険以外の地域事業（インフォーマルサービス）の情報提供もできるようにしました。
- (3) 退院後も在宅生活が安心して送れるように主治医、関係機関等と連携を図り、随時プランの見直しをしていきました。
- (4) 認知症になっても地域の見守りや理解により、在宅生活が継続できるように日頃から主治医、民生委員、近隣の方々で行う情報交換、勉強会、研修会に参加して自己研鑽に努めるとともに地域とのネットワークづくりを推進しました。
- (5) 地域ケアプラザ内の居宅介護支援事業所であるメリットを活かして、所内の他部門との連携を図り、多問題ケース等を積極的に受託しました。
- (6) 介護保険制度における制度の説明や具体的なサービスの利用等について、お客様への丁寧な説明を心掛けました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- (1) 法人内の会議や研修、「かいごのWa! なか」を通して介護保険改正に関する情報の収集やスキルアップに努めました。
- (2) 特定事業所として質の高い支援を行うため主任ケアマネジャーを配置し、お客様の相談に随時対応できるよう24時間相談体制としました。また、今年度も介護支援専門員の実習生を受け入れました。

《利用者数》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
151	157	160	156	156	151
10月	11月	12月	1月	2月	3月
155	157	163	159	158	158

● 通所介護

《サービス内容》

- 要介護1～5の認定を受けられた方を対象に、自立した日常生活を営むことを目的として、お客様、ご家族のご希望を踏まえ、ケアマネジャー等と支援内容を検討しながら入浴、食事等のサービスを提供しました。
- ストレッチを含む機能訓練、曜日レクリエーション、戸外訓練を実施しました。

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 負担割合	(1割負担)	(2割負担)	(3割負担)
(要介護1)	692円	1,383円	2,075円
(要介護2)	816円	1,632円	2,448円
(要介護3)	947円	1,893円	2,840円
(要介護4)	1,076円	2,151円	3,226円
(要介護5)	1,205円	2,410円	3,615円
● 食費負担	650円		
● サービス提供体制強化加算Ⅱ	7円	13円	20円
● 入浴加算	54円	108円	161円
● 中重度者ケア体制加算	49円	97円	145円

※ 介護職員処遇改善加算として利用単位数の1000分の59に相当する単位数の料金が加算されます。

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 9:30～16:35

《職員体制》

管理者1名、生活相談員4名、デイスタッフ27名、運転手9名、看護職員兼機能訓練指導員8名、調理員6名

《実施内容》

平成30年度は、季節の行事、バイキング、松花堂弁当等の行事食、曜日レクリエーション、個別のニーズに合わせた機能訓練、戸外歩行訓練を充実させ、お客様の意欲の向上と残存機能の維持向上につながるよう取り組みました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

編み物、囲碁、将棋、麻雀、シニアリトミック、書道等、お客様の要望にお応えした曜日レクリエーションを実施しました。

《利用者数（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
813	845	838	823	855	837
10月	11月	12月	1月	2月	3月
879	834	742	698	631	681

● 認知症対応型通所介護事業

《サービス内容》

- 介護サービス（移動・食事・体操・入浴等の介助、見守り）
- 健康状態の確認（送迎、食事、体操、レクリエーション、機能訓練）

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 負担割合	（1割負担）	（2割負担）	（3割負担）
（要介護1）	1, 072円	2, 144円	3, 215円
（要介護2）	1, 188円	2, 376円	3, 564円
（要介護3）	1, 305円	2, 609円	3, 914円
（要介護4）	1, 422円	2, 844円	4, 266円
（要介護5）	1, 539円	3, 077円	4, 616円
● 食費負担	650円		
● サービス提供体制強化加算Ⅱ	7円	13円	20円
● 入浴加算	55円	109円	164円

※ 介護職員処遇改善加算として利用単位数の1000分の104に相当する単位数の料金が加算されます。

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 9:30~16:35

《職員体制》

管理者1名、生活相談員5名、デイスタッフ14名、運転手9名、看護職員兼機能訓練指導員8名、調理員6名

《実施内容》

- ・ 安心して穏やかに過ごせる環境を作り、お客様に寄り添ったサービスを提供しました。
- ・ 心地よい疲れで帰宅する事で、ご自宅で穏やかに過ごせるよう支援しました。
- ・ 在宅生活を継続する為、ご家族様には認知症の方へのかかわり方の大切さを伝える機会を作りました。
- ・ 職員には、介護のプロとしてご家族の不安を取り除ける知識と技術を身に着ける勉強会、研修会、事例検討会の機会を作りました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

お客様の想いや状況を把握し、一人ひとりのお客様が安心して穏やかに過ごせる環境を整えることで、ご自宅での生活を続けられるよう適切な支援方法を検討し、実施しました。ご自分で触ったり作ったりする体験や、香りなど五感を使って季節を感じるプログラム（干し柿作り、鍋料理レクリエーション、豆を挽きコーヒーを入れて楽しむ、アロマテラピー等）を提供しました。

《利用者数（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
227	223	238	259	254	239
10月	11月	12月	1月	2月	3月
236	243	233	218	235	276

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《サービス内容》

- 要支援1・2の認定を受けられた方（第1号通所介護事業対象者）を対象に、自立した日常生活を営むことを目的として、ご本人、ご家族の希望を踏まえ、ケアマネジャー等と支援内容を検討しながら入浴、食事等のサービスを提供していきましました。
- ストレッチを含む機能訓練、運動器機能向上訓練、曜日レクリエーション、戸外訓練を実施しました。

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 負担割合	(1割負担)	(2割負担)	(3割負担)
(要支援1)	1,766円	3,531円	5,297円
(要支援2)	3,621円	7,241円	10,861円
● 食費負担	650円		
● サービス提供体制強化加算			
(要支援1)	26円	52円	78円
(要支援2)	52円	103円	155円
● 運動器機能向上加算	242円	483円	724円

※ 介護職員処遇改善加算として利用単位数の1000分の59に相当する単位数の料金が加算されます。

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 9:30～16:35

《職員体制》

管理者1名、生活相談員4名、デイスタッフ27名、運転手9名
看護職員兼機能訓練指導員8名、調理員6名

《実施内容》

運動器機能向上訓練やお客様の生活環境に即した訓練等、個別性の高いプログラムを充実させました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

編み物、囲碁、将棋、麻雀、シニアリトミック等、お客様の要望にお応えし曜日レクリエーションに反映させました。

《利用者目標（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
92	71	75	81	87	74
10月	11月	12月	1月	2月	3月
89	82	73	76	66	73

平成30年度「本牧原地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	16,575,000	2,060,883	18,635,883	23,152,177	△ 4,516,294	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当 事業	0		0		0	
自主事業収入	0		0	503,650	△ 503,650	
雑入	0		0	164,610	△ 164,610	
印刷代	0		0	144,610	△ 144,610	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理料充当)	0		0	20,000	△ 20,000	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	3,990,000		3,990,000		3,990,000	
その他(提案時控除 法人負担分)	3,727,161		3,727,161		3,727,161	
収入合計	24,292,161	2,060,883	26,353,044	23,820,437	2,532,607	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,985,427	0	11,985,427	11,649,743	335,684	
本俸	8,934,114		8,934,114	8,051,988	882,126	職員給与・非常勤職員給与・職員賞与
社会保険料	928,668		928,668	930,948	△ 2,280	法定福利費支出
手当計	1,192,109		1,192,109	2,411,985	△ 1,219,876	職員諸手当・職員通勤費・非常勤職員通勤費
健康診断費	82,089		82,089	59,816	22,273	職員・非常勤職員健康診断
勤労者福祉共済掛金	8,256		8,256	8,256	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	172,438		172,438	183,563	△ 11,125	退職給与掛金
その他	667,753		667,753	3,187	664,566	
事務費	1,083,000	0	1,083,000	1,774,174	△ 691,174	
旅費	6,201		6,201	13,364	△ 7,163	旅費交通費
消耗品費	91,917		91,917	122,911	△ 30,994	事務消耗品費
会議ठीい費	0		0	0	0	
印刷製本費	113,476		113,476	106,202	7,274	インク及びパフォーマンスチャージ料
通信費	239,093		239,093	238,802	291	切手、はがき、宅急便、電話料金、ネットワーク回線費用等
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	0		0	333,153	△ 333,153	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	24,044		24,044	17,522	6,522	傷害賠償保険他
職員等研修費	2,933		2,933	8,900	△ 5,967	研修研究費
振込手数料	14,258		14,258	14,025	233	振込手数料
リース料	373,551		373,551	57,130	316,421	玄関マット、会計用サーバ等、PCリース料他
手数料	214,001		214,001	21,384	192,617	EBサービス手数料等
地域協力費	0		0	0	0	
その他	3,526	0	3,526	840,781	△ 837,255	
事業費	1,962,000	0	1,962,000	1,217,857	744,143	
運営協議会経費	42,000		42,000	14,970	27,030	
指定管理料充当 事業	1,920,000		1,920,000	1,202,887	717,113	
管理費	8,302,900	2,060,883	10,363,783	6,078,749	4,285,034	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	
光熱水費	4,057,559	0	4,057,559	3,948,677	108,882	
電気料金	1,055,691		1,055,691	1,027,362	28,329	
ガス料金	1,046,104		1,046,104	1,018,033	28,071	
水道料金	1,955,764		1,955,764	1,903,282	52,482	
清掃費	1,949,719		1,949,719	0	1,949,719	
修繕費	474,000	2,060,883	2,534,883	2,167,935	366,948	
機械警備費	116,103		116,103	0	116,103	
設備保全費	262,808	0	262,808	0	262,808	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	0		0	0	0	
電気設備保守	83,636		83,636	0	83,636	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	179,172		179,172	0	179,172	
共益費	126,611		126,611	0	126,611	
その他	1,316,100		1,316,100	0	1,316,100	
公租公課	958,834	0	958,834	931,979	26,855	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	958,834		958,834	931,979	26,855	
印紙税	0		0	0	0	
その他()	0		0	0	0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	24,292,161	2,060,883	26,353,044	21,652,502	4,700,542	
差引	0	0	0	2,167,935	△ 2,167,935	

自主事業費収入	1,920,000		1,920,000	0	1,920,000	自主事業への参加料等
自主事業費支出	1,920,000		1,920,000	0	1,920,000	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	0	0	

管理許可・目的外使用許可収入	0		0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0		0	

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市本牧原地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
寿和の会	65歳以上	60,000	地活	60,000	0	0	60,000	0	0
	20名		包括						
	無料		介護						
のびのび体操	65歳以上	133,440	地活	83,640	49,800	0	120,000	0	13,440
	20名		包括						
	1回120円		介護						
健脳体操1.2	地域の方	218,880	地活	142,800	76,080	0	192,000	0	26,880
	各コース20名		包括						
	1回120円		介護						
男の料理教室	地域の男性	94,331	地活	47,831	46,500	0	44,000	50,331	0
	12名		包括						
	1回 500円		介護						
ふれあいサロン潮風 (ボランティアが運営)	65歳以上	1,000	地活	1,000	0	0	0	0	1,000
	15名		包括						
	1回 100円		介護						
子育てサロン	地域の未就園児と親	7,120	地活	6,120	1000	0	6000	0	1120
	親子10組		包括						
	1回 100円		介護						
小学生のお菓子作り	小学生	13,000	地活	8,000	5,000	0	6,000	7,000	0
	10名		包括						
	500円		介護						
太極拳	地域の方	135,000	地活	13,500	121,500	0	135,000	0	0
	10名		包括						
	1回 500円		介護						
折り紙教室	地域の方	6,675	地活	-1,275	7,950	0	0	6,675	0
	20名		包括						
	1回 50円		介護						
歌って笑ってハッピー タイム	地域の方	82,032	地活	36,032	46,000	0	66,000	16,032	0
	各50名		包括						
	1回 100円		介護						
脳イキキ教室 (ふれあい助成金にて ボランティアが運営)	65歳以上	0	地活	0	0	0	0	0	0
	1ヶ月2500円		包括						
			介護						
ボラたま	地域の方	2,500	地活	2,500	0	0	0	2,500	0
	20名		包括						
	無料		介護						
			生活						

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市本牧原地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
もう一度English	地域の方	18,090	地活	0	18,090	0	0	0	18,090
	35人		包括						
	教材1冊200円		介護						
			生活						
障がい者余暇支援事業 ホップステップ夏休み	障がい児	9,465	地活	7,965	1,500	0	4,000	4,905	560
	8名		包括						
	1回 500円		介護						
			生活						
はらっぱ文化祭 &はらっぱ祭り	地域の方	81,641	地活	48,291	1800	31550	0	67,441	14,200
	定員なし		包括						
	1回 100円		介護						
			生活						
シルバー体操	65歳以上	146,880	地活	79,560	67,320	0	120,000	0	26,880
	40名		包括						
	1回 120円		介護						
			生活						
ハロウィンクッキー	地域の子ども	6,641	地活	6,641	0	0	0	6,641	0
	100名		包括						
	無料		介護						
			生活						
レコードカフェ	地域の男性	23,998	地活	5,598	18,400	0	0	23,998	0
	15名		包括						
	1回 100円		介護						
			生活						
花やぐまち事業	どなたでも	11,116	地活	11,116	0	0	0	11,116	0
	定員なし		包括						
	無料		介護						
			生活						
なか区ブックフェスタ	どなたでも	4,000	地活	4,000	0	0	0	0	4,000
	定員なし		包括						
	無料		介護						
			生活						
シニアリトミック	地域の方	42,720	地活	28,560	14,160	0	36,000	0	6,720
	20名		包括						
	1回 120円		介護						
			生活						
料理教室	地域の方	24,000	地活	9,000	15,000	0	0	24,000	0
	10名		包括						
	1回 500円		介護						
			生活						
ほんもっくん広場	地域の方・小学生	30,022	地活	30,022	0	0	0	5,942	24,080
	20名		包括						
	無料		介護						
			生活						
本牧さくら祭り	地域の方・小学生	7,446	地活	7,446	0	0	0	2,446	5,000
	1日50名		包括						
	無料		介護						
			生活						

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市本牧原地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
New Years Concert	地域の方	2,040	地活	2040	0	0	0	2040	0
	50名程度		包括						
	無料		介護生活						
ハガキ絵講座	地域の方	0	地活	0	0	0	0	0	0
	10名		包括						
	1回/100円		介護生活						
ボランティア交流会	ボランティアの方	47,435	地活	47,435	0	0	0	47,435	0
	40名		包括						
	無料		介護生活						
介護予防セミナー (介護予防普及強化業務委託地域介護予防活動支援事業)	地域の高齢者	114,929	地活						
	20名		包括	114,929	0	0	100,000	8,209	6,720
	無料		介護生活						
ルミエール体操&介護予防セミナー (介護予防普及強化業務委託地域介護活動支援事業)	高齢者 地域の方	36,720	地活						
	20名		包括	36,720	0	0	30,000	0	6,720
	無料		介護生活						
地域活動お助け講座 (介護予防普及強化業務委託地域介護活動支援事業)	地域の担い手、支援者	0	地活						
	10名		包括	0	0	0	0	0	0
	無料		介護生活						
ボランティア団体支援講座 (介護予防普及強化業務委託地域介護活動支援事業)	地域の方	0	地活						
	60名		包括	0	0	0	0	0	0
	無料		介護生活						
地域デビュー応援講座 コーヒーバリスタ入門	地域の方	23,298	地活						
	9名		包括						
	1000円		介護生活	14298	9000	0	15000	8298	0
スポーツ吹矢健康教室1	地域の方	32,600	地活						
	15名		包括						
	1回200円		介護生活	20200	12400	0	27000	0	5600
グリーンリーフ地域勉強会(認知サロン)	認知症を介護している家族	7,685	地活						
	10名		包括	7,685				7,685	
	無料		介護生活						
グリーンリーフ地域勉強会(医療)	地域のケアマネジャー	1,700	地活						
	40名		包括	1,700				1,700	
	100円		介護生活						
姿勢とウォーキング	地域の方	25,680	地活						
	9名		包括						
	1500円		介護生活	12180	13500	0	15000	9000	1680

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市本牧原地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
スポーツ吹矢健康教室2	地域の方	49,000	地活						
	15名		包括						
	1回200円		介護						
			生活	23910	25090	0	39000	2160	7840
あおぞらゆっくりウォーキング	地域の方	8,300	地活						
	15名		包括						
	無料		介護						
			生活	8300	0	0	7600	0	700
地域デビュー7応援講座 傾聴ボランティア	地域の方	12,029	地活						
	15名		包括						
	1000円		介護						
			生活	2029	10000	0	0	9789	2240
民生委員・ケアマネ交流 勉強会	民生委員・地域のケアマネージャー	7,300	地活						
	31名		包括						
	無料		介護						
			生活	7300	0	0	5000	2300	0

平成30年度 自主事業報告書

横浜市本牧原地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護予防セミナー (介護予防普及強化業務委託 介護予防普及啓発事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者に対して介護予防の必要性和ロコモティブシンドローム予防 認知症予防 ・高齢者自身で取り組むきっかけづくり 仲間づくり 一人暮らしの見守り ・高齢者に必要な栄養、口腔ケア等の知識と技術の習得 毎回地域の運動指導員またはシニアリズム体操講師による体操運動、認知症予防レクリエーション、リズム体操運動の後の時間に年間3回づつ栄養士、歯科衛生士による講座	毎月第2月曜日 全12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ルミエール体操 &介護予防セミナー (介護予防普及強化業務委託 地域介護予防活動支援事業)	高齢者に声かけをするきっかけ、集いの場づくり。地域運動指導員による運動、介護予防認知症予防講座。ハマトレを習得して今後の活動に生かす。また、習得したことを地域の他の事業で生かすことができる。地域の活動に参加、活躍することの意義が分かる。 地域運動指導員講師による運動体操、認知症予防レクリエーション、栄養士、歯科衛生士による講座 参加する方は固定されたが自主化には至らず引き続き支援が必要。地域の脳トレリーダーによるボランティア講師を依頼しその活躍の場としても今後引き続き実施していくこととなる。	毎月第4水曜日 全12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域活動お助け講座 (介護予防普及強化業務委託 地域介護予防活動支援事業)	地域の見守り活動や自治会で活動している担い手の方がその活動に生かせる会議予防の知識を身につけてもらう。 包括看護師他によるロコモ予防の話、高齢者に必要な口腔ケア栄養についての知識と認知症予防、認知症の方との関わり方等の講座。 定例会に参加させてもらう形で開催したが、定例会で別の議題があったりと、講座を定期的開催していくことは出来なかった。今後も機会があるれば講座を開催させてもらい知識の習得と声かけ等のツールにしてもらうこととする	2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア団体支援講座 (介護予防普及強化業務委託 地域介護予防活動支援事業)	当ケアプラザで活動しているボランティア団体の方々が活動することの意味や必要性を理解し活動が活発化する。また新しい仲間を増やすことが出来る。 作業療法士による活動することによる健康増進と活動の意義についての講座。 グループ紹介も入り交流や活躍の様子も紹介でき、意識を高めることは出来たかと思われる。次年度も引き続き、同じ中区の作業療法士より講座を受けより身近な例と取り組みの実際等の内容で開催予定する。	5月 全2回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
寿和の会 (平成15～16年度 転倒骨折予防教室卒業生の会)	継続的に会を行うことで、転倒骨折を予防するとともに、仲間作りを支援する。 体に不安がある方でもレクリエーションを楽しんでいただける場を設ける。 前半は講師による体操、後半はペタンクを行う。 最後に、お茶の時間を設け、参加者の交流を図る。	第1・3月曜日 全20回 (8月・祭日除く)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
のびのび元気体操	65歳以上の方を対象にした教室。 運動不足を解消し、継続的に事業を行うことで仲間作りの場を提供する。 ストレッチを取り入れた体操。 体操についていけなくなった方を地域包括支援センターに繋ぎフォローしていく。	第1・3水曜日 全24回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
健脳体操教室 1・2	運動不足を解消し、継続的に事業を行うことで仲間作りの場を提供する。 地域の方ならどなたでも参加できる体操教室。 脳に刺激を与えながら日常生活に必要な筋力を鍛える。 1日に2クラス実施し、講師はYMCAより派遣。	第2・4木曜日 全24回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男の料理教室	男性の家事の自立と仲間づくりを支援する。 はらっぱ祭りや地域イベントでの給食ボランティアを目指す。 毎回、参加者内で作りたいメニューを考え、旬の食材を使用し和、洋、中、様々な料理にチャレンジする。 障がい者の余暇支援やはらっぱ祭り内での調理、販売も行った。今年度はさらに自立を目指すために、下準備、セッティングをしてもらい、調理はメニューを簡単にしてグループごとに全メニューを完成させた。	第2日曜日 全11回 (8月除く)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ふれあいサロン 潮風	地域の高齢者を対象にした仲間作りのサロン。 閉じこもり防止をはかるとともに、仲間作りを支援する。 事業の運営や体操の担い手ボランティアを育成する。 当初よりボランティアグループが担い手となっていたが、ボランティアの減少により助成金無しで運営していくため、地域団体や無償ボランティアで企画していく。 後半はお茶の時間を設け、参加者同士の交流を図る。	第1木曜日 全12回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てサロン	子育て中の親子が集うサロン。 親子がリフレッシュし、子育てサークルや、育児の情報交換、仲間作りなどを支援する。 隔月でボランティアグループによる読み聞かせを実施。 親子ヨガや食育講座など新たな講座を設けたことで新たな参加者増につながった。	第3火曜日 全12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
小学生のお菓子作り	小学生がお菓子作りに挑戦し、招待した地域の高齢者に作ったお菓子をふるまう。 ゲームやレクリエーションを取り入れ、交流の場を提供する。 大鳥中学校コミュニティハウスと共催で実施。 夏休みは参加者が集まらないため、今年度より年1回とした。	年1回 平成31年2月3日実施

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
太極拳教室	太極拳を通じ運動不足を解消し、継続的に事業を行うことで仲間作りの場を提供する。 地域の方ならどなたでも参加できる。 来年度の自主化を目標に今年度は後方支援とした。	第1・3・5 土曜日 全27回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
折り紙教室	季節に合わせた折り紙を作成した。 リーダーを選出し、各グループに指導できるようフォローした。また、高齢者サロンや文化祭の飾りつけのボランティアなど地域活動の場を提供していく。	第3木曜日 全11回 (8月除く)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
歌って笑って ハッピータイム	カラオケやピアノに合わせて参加者全員で歌を歌う。 外出の機会を増やし、声を出すことにより健康の増進をはかる。 ボランティア育成と地域住民同士の交流を図る。 参加者の増加により月2回の開催とした。	第1・3月曜日 全22回 (8月除く)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
脳イキイキ教室	65歳以上の方を対象にした教室。 読み書き計算や、定期的な外出で認知症予防を図るとともに 歓談コーナーを通して仲間作りを支援する。 サポーターとしてボランティアを育成するとともに、卒業生をボランティア活動や次の事業に繋げる。	毎週木曜日 全43回 (9月・3月除く)

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボラたま	障がい児に携わるボランティアの育成とともに各地域ケアプラザで7月下旬～8月下旬にかけて実施する「夏休み余暇支援事業」のボランティア研修も兼ねる。障がいのある子どもたちとの関わり方を学び、地域生活を支援するサポーターを増やす。障がい児者支援・啓発ネット「わっしょい」を講師に迎え、ボランティア講座を実施、障がい児への接し方や理解を深めた。区内6地域ケアプラザと中区社協の共催事業。	7月31日 年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
もう一度 ENGLISH	学習の喜びを感じていただくとともに、参加者同士の交流を図る。中学生程度の内容を、実力・経験を問わず地域の方が集い、学ぶ場を提供する。	第2・4土曜日 全22回 (8月除く)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
障がい児 余暇支援事業 ホップステップ なつやすみ	長期休暇（主に夏休み）の障がい児への余暇支援を行い、介護者のレスパイトケアを行う。障がい児と地域の方が関わる場を提供し、地域住民の障がい理解への一助とする。参加児童（個別支援学級在籍者）とボランティアにてゲームや軽い体操などの室内・外レクリエーション、昼食・おやつを提供などを行った。区内ケアプラザで協力して実施し、本牧原は中学生を対象に行った。	夏 年1回 8月12日（日）

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
はらっぱ祭り & はらっぱ文化祭	ケアプラザ内に地域の方やデイサービスの方、近隣の学校や保育園の作品展示の場を設け、手作りの作品を飾る。ポレポレグッズ(障がい者施設などで作成した製品)やボランティアなどが作成した作品を販売し、地域の方々に活動を紹介し理解を深めていただく。文化祭の最終日にはお祭りを開催し、地域の団体による活動の発表や、模擬店など、地域の方の活動の場を提供した。	文化祭11月11日～ 18日 お祭り11月18日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ハロウィン クッキー	ヘルスメイトの協力で、クッキーを作成し、ハロウィンの日に地域の子どもたちに無料で配布する。地域の親子にも広くケアプラザやヘルスメイトの活動を知っていただく。	10月31日

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
レコードカフェ	男性の外出や仲間作りのきっかけを提供し、地域にいる新たな担い手を探し、支援する。 コーヒーを提供し、音楽鑑賞をしながらくつろいでいただく。 新たな試みとして、年4回は女性のみでも参加できるオープンカフェを実施した。	毎月第1水曜日 全12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
本牧さくら祭り	地域の行事に参加し、地域の施設や商店との関係づくりをすすめる。 地域の方に本牧原地域ケアプラザの存在を知ってもらうとともに足を運ぶきっかけを作る。 来館者に1人一杯さくら茶をサービスする。	平成30年 4月1日(日) ～4月8日(日)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
花やぐまち事業	花と緑にあふれる街づくりに協力するとともに、季節の花々をケアプラザの利用者の方々に楽しんでいただく。 園芸ボランティアグループ「コスモス」に花壇の手入れを定期的にしていただくとともに、種まきや苗の植え替えを年2回実施した。	毎週木曜日 全52回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア交流会	日頃、ケアプラザで活動しているボランティアに対し、職員が日頃の活動に感謝し、またボランティア同士の交流と情報交換の場を提供する。 各ボランティアから自己紹介や活動の披露をしてもらい、また職員も加わりゲームを楽しみながらボランティアとの交流を深める。	平成31年3月 30日実施

事業名	目的・内容	実施時期・回数
シニアリトミック	地域の方を対象にした教室。 ピアノに合わせて転倒予防、認知症予防を意識したリズム体操を行う。 また、運動不足を解消し、継続的に事業を行うことで仲間作りの場を提供する。	毎月第4月曜日 全12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
料理教室	地域の方どなたでも参加できる教室。 料理を通じて仲間作りの場を提供する。 サブコーディネーターが講師となり1回目は「飾り巻き寿司」を行った。2回目以降は外部の講師を依頼し、子どもから大人まで楽しめる料理教室を行った。2回目は「デコもち作り」3回目は「チョコ菓子作り」を行った。	平成30年4月28日、9月21日 平成31年2月1日 年3回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほんもっくん広場	子どもたちに、地域の人に見守られている安心感や大人との関わりを通して様々な学びを得られる場、気軽に来られる居場所を作る。 高齢者だけでなく、もっと子どもたちにもケアプラザを利用してもらうためにフリースペースを活用する。 まずは宿題（なければドリル）を30分、終わったら自由時間とし、ボランティアとの交流の時間をもつ。 子どもたちの成長とともに安全確保が難しくなり、今期で終了とした。	毎週火曜日 全42回 (8月・年末年始 除く)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
New Years Concert	子どもから大人までさまざまな世代の地域団体に参加もらい、ダンスや管楽器演奏を披露していただいた。 また、多世代が集えるような場を提供することで地域住民の繋がりができた。	平成31年1月20日 実施

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ハガキ絵講座	デイサービスのボランティアがハガキ絵を地域の方に教えたいとことから講師を依頼し、講座を開催することになった。地域のどなたでも参加できる講座。 新事業で新たな地域住民の参加を目的とし、また趣味を通じた仲間作りの場を提供する。	平成30年 6月8日 15日、22日 全3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域デビュー応援講座 「コーヒーバリスタ入門」	個人の趣味や興味をボランティア活動に繋ぐきっかけとし、高齢者の仲間づくりを推進する。 ハンドドリップやサイフォンを使用したコーヒーの淹れ方をマスターする。またボランティアの模擬体験も併せて実施、活動に繋げていく。	平成30年5月16日・23日・30日 全3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スポーツ吹矢健康教室	高齢者の健康増進および仲間づくり、地域の特に高齢者の健康づくりの担い手として、また生涯スポーツであることから多世代交流にも繋げていく。 腹式呼吸と胸式呼吸を用いたスポーツ吹矢教室。地域交流と共催。	平成30年6月～9月 全10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
シルバー体操	運動不足を解消し、継続的に事業を行うことで仲間づくりの場を提供する。体操についていけなくなった方を地域包括センターにつなぎフォローしていく。	第1, 3金曜日9時30分から11時30分

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
中区ブックフェスタ	ブックフェスタを通して、ケアプラザを地域の方に知ってもらう。親子でお話会に参加し、絵本の楽しさを親子で味わう。子育てサロン内で行っているお話会のボランティアの本牧座の方による、手遊びとお話しを実施する。	平成30年11月11日（日）～18日（日）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
グリーンリーフ地域勉強会（認知サロン）	認知症の方を介護している介護者の集い。介護の悩みや不安を話し少しでも介護の負担の軽減を目指す	毎月第1金曜日 全13回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
グリーンリーフ地域勉強会（医療）	地域包括支援センターと地域の福祉サービス事業所に所属するグリーンリーフメンバーが協働し、ケアマネジャー、地域の福祉、保健、医療の勉強会や相談会を開催する事で、ケアマネジャー支援や福祉職のスキルアップを図ると共に、地域へ普及啓発を行い、地域ネットワークの構築強化と、地域ニーズに対応できる力を養う事を目的として実施した。	平成30年12月21日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
姿勢とウォーキング	住民同士の関係が希薄である集合住宅で（パークシティ本牧）お互いの顔が見える関係を構築することを目的に、だれでも無理なく取り組み、関心が高い姿勢測定とウォーキングを実施し、健康増進、体力向上、仲間づくりを目指した。	平成30年9月15・22・29日 3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
あおぞらゆっくりウォーキング	地域住民の仲間づくり、共通の趣味を通じて交流を促進する。今回は「ひとりではなかなか行かない場所」のひとつである赤坂迎賓館を散策した。	平成30年11月15日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
民生委員・ケアマネ交流勉強会	地域包括支援センターと地域のケアマネジャー、民生委員が顔の見える良好な関係を築き、地域ネットワークの構築強化と、地域ニーズに対応できる力を養う事を目的として実施した。「支えあいマップ」をテーマとして、話し合いました。他区の住宅地図を基に近所付き合い、キーパーソンの有無等を参加者全体で把握し、日頃の見守りの状況を全体で共有しました。	平成31年2月27日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域デビュー応援講座 傾聴ボランティア	傾聴を通して相手の気持ちに寄り添い、汲み取ることができるスキルを身につけ、地域の施設等での活動に繋げ、新しいインフォーマルサービスのグループとして育成することを目的に実施した。 *横浜市中区地域ケアプラザ6施設と中区福祉保健活動拠点の合同による地域人材の発掘・育成するための講座として実施。	平成30年11月9・16・23・30日 全4回